

平成 23 年度 第 1 回佐鳴湖ワーキンググループ会議 議事要旨

日 時： 平成 23 年 9 月 17 日（土）

9：30～12：30

場 所： 佐鳴湖公園北岸管理棟

出席者： 12 名

事務局 8 名

1 開会

● あいさつ（地域協議会 会長）

・ご承知のとおり、これまで佐鳴湖の水質浄化を推進してきたが、清流ルネッサンスⅡ行動計画（以下、ルネⅡ）は、今年が最終年である。当初、毎年ワースト1という報道がなされ、佐鳴湖のイメージが悪くなった。しかし、努力の結果、徐々に良くなり、目標であった COD 8 以下はクリアできそうである。佐鳴湖のイメージも、少しずつ良くなっている。しかし、もう一つの目標である透明度 50 cm 以上は、残念ながらクリアできていない状態である。今回お集まりいただいた目的は、来年度以降の新しいスキームを設定するため、これまで佐鳴湖に関わってきた方々にもう一度集まっていたいただき、どのような方向で浄化を進めていくか、合意形成していただくことにある。その際に、いくつか課題があり、一つは浄化のための基本的な考え方、コンセプトである。従来計画は、汚染源対策の施策が中心だった。今後も汚染源対策は重要な柱の一つだが、加えて面源負荷という課題についても検討していただきたい。二つめは、目標をどこに設定するかということである。ルネⅡでは COD、透明度という目標だったが、その他にも今後議論して目標設定しなければならない。三つめは、佐鳴湖をどういう空間として整備していくのかということである。以前の調査で、佐鳴湖の利用者は年間 40 万人を超え、多くの市民が利用している。どのような場所として整備していくか、様々な利用の考え方があがるが、その方向性を議論していただきたい。

2 佐鳴湖のこれまでとこれから

● 佐鳴湖の現状と今後、ワーキンググループの位置づけ等について、パワーポイントを使用し説明（事務局）

● 質疑

- ・ COD の負荷量一日 1000 キロぐらいというのは、上流下流全て含めた値か。（メンバー）
- ・ 上流下流全て含めた値である。農地や市街地において、1 m²当たりの汚れの値をシミュレーションして出している。（事務局）
- ・ 面源負荷が重要であるが、面とはどういう面をとらえているか。（メンバー）
- ・ 降雨が佐鳴湖に流入する範囲を流域と言うが、その範囲を考えている。（事務局）
- ・ この会の開催は、流域全体に知らせて、関心のある方々が集まったのか。もし空白地域があるなら、意味がないと思うが。（メンバー）
- ・ 今日欠席の方もいるが、地域協議会に出席している流域の 17 の自治会長など、地域の代表者に声をかけさせていただいている。（事務局）

- ・ 流域全体が関係者であるということが重要なので、そのことへも意識を向け、わかってもらえるようにしていただきたい。(メンバー)
- ・ いただいたご指摘はそのとおりである。今日は、休日にもかかわらず参加していただける意識の高い皆さんがお集まりいただいている。しっかり議論し、取組みを進めていく上では、流域で協力していただくことになる。(事務局)
- ・ ワーキンググループは素案を提示するという事になっているが、協議会との関係をもう少し詳しく説明していただきたい。(メンバー)
- ・ ワーキンググループの検討結果は、浜松土木事務所と浜松市が協議会に報告し、協議会の結果もワーキンググループにフィードバックする。パワーポイントは一方向の矢印になっていたが、一方通行ではないということをご理解いただきたい。(事務局)
- ・ 地域協議会で議論できればいいが、大きな組織なので、思いをぶつける機会がないということで、少人数の、熱い思いを持つ方々と一から議論し、次期行動計画を作りたいと立ち上げたのが、ワーキンググループ会議である。また、今後流域対策を進める上で、市民から中心となって動いてくださる方が出ればという思いもある。まずは、声をかけて集まっていた方々で議論し、今後の浄化活動を考えたい。その議論の中で、上流の方々も加わった方がいいということであれば検討する。本日は、議事次第を作っているが、質問やワーキンググループの今後の動き方など、何でも結構なので、提案いただければありがたい。(事務局)
- ・ ワーキンググループ会議という格好に合うかは別としても、対象地域からバランスよく参加していただくことは大事である。薄い地域があれば、再度声かけをしたら良いのではないか。地域で温度差があるけれども、こういった会への参加を促していくことが必要であるし、さらにそういった市民の思いが地域協議会に流れていくと思う。また地域協議会の課題も見えてくると思う。(メンバー)
- ・ ルネⅡは、基本的に、行政中心でしっかりした計画を立て、一定の期間で目標を設定して実施するというやり方であった。私はもう 10 年関わっているが、浄化の問題を浜松市民に広げていくことは実に大きな課題で、また難しかった。アンケートを取っても、「私は関係がない」、また報道の情報のみで佐鳴湖を見る市民も多い。イベントを企画し、湖に集まってもらうことをやってきたが、なかなか広がらない。いつも集まる人は同じである。そこで、新しい行動計画は、策定する段階から、地域の方々の考えを入れ込んでいくことにした。いろんな人がいろんな意見を持っているが、合意を作りながらやっていきたい。ルネⅡの目標が達成できたのは、行政のきめ細かな対応とともに、専門委員会の意見による検証をしてきたからであるが、下から沸きあげたものではないので限界がある。そこで、目標やコンセプトの設定段階から地域の方々に加わっていただき、行政や専門委員会の意見も聞きながら、ボトムアップで一つの大きな方向性を作りたい。(メンバー)
- ・ これまでの協議会の PR の仕方は、自分達で作成したものを、「○○だより」のように、自分達の仲間だけに分けていたというところに限界があったと思う。流域に住む市民が「私たちの湖」とするには、地域の人がワーキンググループに参加しているということが、佐鳴湖への意識につながると思う。少し乱暴な

意見かもしれないが、次回から第1回の会議ということにして、流域の方々に参加していただく、またマスコミの方にも来ていただき、市や県の中の伝達ツールも活用してPRしていただければどうか。(メンバー)

- ・ 皆さんそれぞれの思いを持って参加されているので、自己紹介していきながら、考えていることを十分話していただければどうか。(メンバー)
- ・ 私共としては、市民団体、市民個人、企業、農業、地元自治会の代表の方に声をかけさせていただいたつもりであった。今後どのようにワーキンググループを進めていけばよいか、自己紹介の中で、ご意見をいただければありがたい。(事務局)

3 自己紹介

- 各自、一言ずつ自己紹介

4 ワークショップ ― 佐鳴湖の課題を共有しよう ―

- A、Bの2グループに分かれ、佐鳴湖の問題点や課題を共有するための、グループワークを行い、検討結果を発表した。(別表 参照)

< Aグループ >

【質疑】

- ・ ブナを選んだ理由は何ですか。(メンバー)
- ・ 肥料を地中に蓄積して、きれいな水を吸って、何十年後に吐き出すという話を聞いたことがある。(メンバー)
- ・ 樹種にこだわらずに植樹したほうがいいと思う。(メンバー)
- ・ 地域性から考えると、ブナは生えない。ブナは、この地域では適応していかない。東北地方や天城の一部などの比較的寒冷的な地域に生育する。(メンバー)

< Bグループ >

【質疑】

- ・ 市長が富塚にお住まいなので、もっと佐鳴湖に来ていただきたい。(メンバー)
- ・ 官脇方式の植樹のいいところは、成長が早く、10年で10mの森ができる点であり、自然に変遷を待つよりも短期間で森ができる。(メンバー)
- ・ 短い期間に多様性のある森をつくるには有効な方法であるが、それが自然植生かという点で議論がある。適材適所があるようだ。(メンバー)
- ・ 目指すべき姿はどのようにあるべきか、交通アクセスを良くし、駐車場を多くするのはいいが、40万人を80万、100万人にして観光地とすることがいいことなのか、今後考えていかなければならない。また、佐鳴湖を定量的な数字で評価するのはやめて、例えばシジミがすむようになったのは分かるが、透明度が50cmから60cmになったと言っても、どういう姿になったのか、ぴんと来ない。今までとは違った視点でとらえてはどうか。(メンバー)
- ・ 40万人は一日あたり1,000人ぐらいなので、3,000人ぐらいになっても、それほど問題はないと思う。お茶を飲めるとか、ご飯を食べれるところを、ちゃんとした合意の下で作ることも大切だ。人が集うということは、議論も起こり、いろいろ見聞きすることで、話が進むことが期待できる。(メンバー)

- ・ 今日の見解は、大人だけの意見なので、子々孫々まで伝えるということであれば、小学生にもディスカッションしてもらいたい。いい意見が出るかもしれないと思う。(メンバー)
- ・ 「佐鳴湖の自然に親しむ会」のようなイベントを子供たちとやっ、そのグループで考えるのが良いと思う。小学校の環境学習もいいが一過性である。もう少し根付いたものがほしい。(メンバー)
- ・ 周辺の小学校は環境学習に取り組んでいる。題材としてお願いしていくことなど、検討させていただきたい。(事務局)

5 閉会

● 連絡

- ・ 本日欠席の辻野氏から、事前に現在の意見をまとめたものをいただいたので、配布させていただいた。(事務局)

● あいさつ (事務局)

- ・ グループワークでは、水質、公園整備、人が集まるような場所にしたいなど、様々なご意見をいただいた。次回は10月29日、同じ時間、同じ場所を予定している。本日の検討内容を踏まえ、今後佐鳴湖をどのようにしていったらよいか、次回までの宿題として各自意見をまとめ、活発な議論をいただきたい。

以上

【 第1回ワーキンググループ会議 課題・問題点のまとめ 】 ～きれいな佐鳴湖を取り戻すために～

区分	考えられる方向性	着眼点	課題・問題点		
水質・水量に関する事	■水質、水量の向上	・さらなる水質、水量の向上 ・市民に伝わりやすい指標	水量の増加	・湧水が少なくなった(40～50年前より)	・水量を増やす
			CODの改善	・COD 通年8以下 ・COD 目標は5になるか。(諏訪湖) (したい！！) ・CODを6ppm程度にしたい	・COD 最終目標2以下 10～30年計画 ・COD 負荷大事業者 ピンポイント改善働きかけを
			透明度の改善	・汚れが目につく(透明度、ごみ) ・透明度の低い水(汚れが目立つ)	・透明度1m以上 10～30年計画 ・透明度の具体的なイメージが伝わらない
			水の色	・見た目が悪い(水の色)	
			湖水の温度が高い	・湖水の低温化 浸透マス5万個以上 仕組み変更 グリラ雨対策含み	
			塩分濃度が高い	・塩分濃度が高い(くなっている)	
			逆流水の制御	・新川に水門 逆流水をコントロール	
			五感で伝わる指標	・五感で伝わる指標	・数値の目標値(COD 透明度)から五感で感じられる(透明度が 50cm→1m etc.) 指標にする
佐鳴湖自体に関する事	■親水機能の充実 (レクリエーション機能、 景観形成機能)	・湖のさらなる親水機能の充実 ・緑と一体となった水辺景観の形成 ・親水空間の利用促進(資料館等) ・日常の気軽な利用の促進(地域の子供達の利用)	底質の改善	・場所によってヘドロ堆積している	
			昔の砂礫の水辺に	・昔の水辺に戻したい ・昔の湖岸に戻したい ジャリやグリ石→砂礫へ	・湖岸 採石?だけでなく砂場も ・水辺空間の仕上げ 10～30年
			楽しめる多様なメニュー 資料館や博物館	・佐鳴湖は地域住民に愛されている(佐鳴湖ウォーク) ・公園のコンセプトがない!	・観るもの、遊ぶものが少ない(資料・水族館) (レストラン・船) ・管理棟の機能強化が望まれる 設備・内容・人員 公園→博物館機能へ
			利用者のマナー向上	・利用者のマナー 運転者のマナー 悪い!	・トイレがきたない
	■生物生息環境の確保、保全 (環境保全機能)	・湖のさらなる生物環境の維持・向上 ・漁獲資源の確保・保全 ・佐鳴湖のもつ生物多様性の機能の拡大(エコロジカルネットワーク)	緑地保全 植林や自然更新	・緑地帯が少なく、市街地が接近している ・ブナの木植える(森林)	・佐鳴湖流域周辺の緑地を保護(条例の設置) ・緑が少ない→樹木を植える運動
			湖内の生息環境改善	・底生動物が少ない(光が届かない)	
			ノラ猫の問題	・ネコがいる	
			外来種の駆除	・外来種を無くしたい	
周辺地域に関する事	■地域住民との結びつきの向上	・佐鳴湖に対するイメージ向上・PR ・湖での環境学習、イベントの充実 ・流域の企業、農業者、住民の主体的な関わり ・土地利用(みどりの保全)、下水道・浸透枘の普及等の行政(施策)の関わり	イメージアップ	・ワーストワンで間違ったイメージを与えている	・イメージキャラクターにヤマトシジミを
			広報で周知を図る	・広報の多重化 行政→自治会→一般宅、行政→一般宅 NPO、一般宅→発信チャンネル	・佐鳴湖に対するこの様な取組みをされている事の周知を図るべきでは ・市長の発言、行動が少なすぎる
			環境学習の場	・環境学習で子供はよく知っている(小・中とも進めている) ・環境教育の場としての整備	・佐鳴湖周辺の小中学校の環境学習 独自のプログラムを
			資料館	・佐鳴湖資料館建設	
			植樹	・町(自治体)単位で植樹を 京都議定書ミニミニ版	・ドングリから木を育てよう(2年後植樹)
			憩いの場の提供	・お茶 Coffee 等を提供できる(デッキチェア等) 場所の開設	
			農業者の関わり	・農業従事者への佐鳴湖に対する関わり認識	
			雨水マス	・水温が高い対策 雨水マスを取り付けて浸透性の高い舗装	
	アクセスの改善	・車を使わずに来やすいとはいえない! JR 浜松駅、高塚駅からのアクセス改善			
	■地域循環型社会の形成	・資源の循環利用(地産地消、ヨシ・非食用魚の農地利用など) ・佐鳴湖=地域資源としての認識	エコファーマーを支援	・エコファーマーの野菜 トラック市 ・駐車場が少ない	・地域住民によるエコファーマー支援がない ・エコファーマーが得をするしくみがない
観光地開発と環境保全			・空間 イメージ 環境 を如何に考えるか ・佐鳴湖を最終地点としての観光地開発 ・先進地を見る 内外 湖辺建物 中国ヨーロッパ米国	・来場者数増加と環境保全の間を如何に埋めるか? ・佐鳴湖までの案内表示が少ない	
広域に関する事	■観光で利用促進・イメージアップ	・広域の来訪者による賑わい創出と、佐鳴湖に対するイメージ向上	観光地開発と環境保全	・空間 イメージ 環境 を如何に考えるか ・佐鳴湖を最終地点としての観光地開発 ・先進地を見る 内外 湖辺建物 中国ヨーロッパ米国	・来場者数増加と環境保全の間を如何に埋めるか? ・佐鳴湖までの案内表示が少ない
	■市民との結びつきの向上	・関心の高い市民との連携	市民による維持管理	・アダプトプログラムも一考	

佐鳴湖の抱える課題を一言でたとえると・・・『いまだきれいなイメージが伝わっていない佐鳴湖』『いまだ関心が薄い佐鳴湖』『いまだ透明度の低い佐鳴湖』『ワーストワンを脱却してほっとしている佐鳴湖』『協議会の話が進まない佐鳴湖』